Introduction of works

【ブローチ兼ペンダント】

井口 泰宏

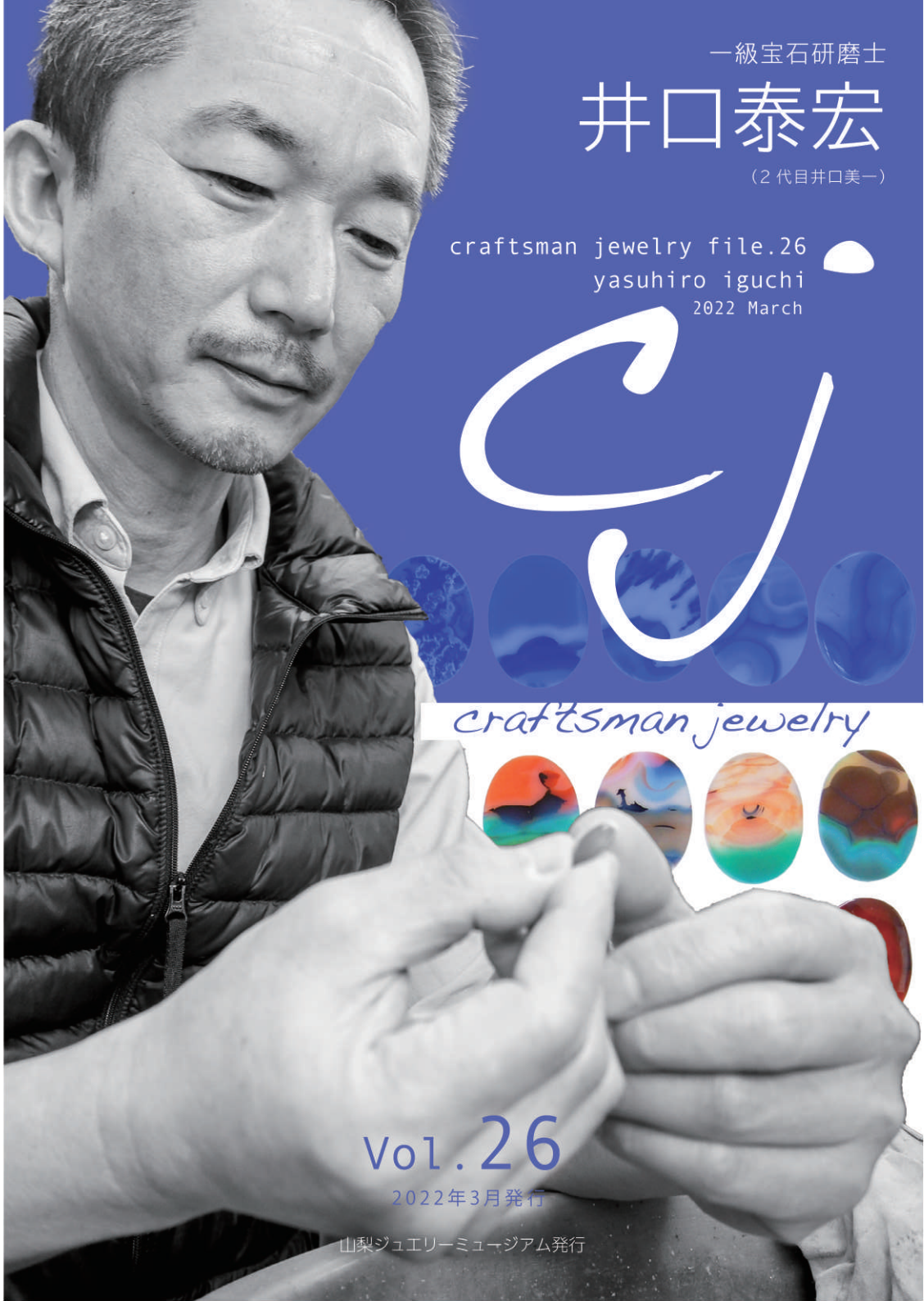
ピクチャーメノウのルースを使用し、枠はK18を使用している本作品。枠の部分も2級貴金属装身具製作技能士であり宝飾加工のジュエリーマスターでもある井口が加工したものである。枠の基礎はシートワックスという柔らかい素材のワックスでルースに合わせて型を取っている。シートワックスを用いたのは、人の手で作ることでCADでは正確に表現できない繊細な部分もかたちづくることができると考えているからだ。

ルースは模様に合わせて波上に研磨されており、風景画に抑揚を持たせている。この凹凸をつくりだす際は元々メノウが持っている模様が崩れないよう熟練の技で研磨していく必要がある。風景は井口がイメージしたものはあるものの、それぞれの人が何に見えるかを感じ取ってほしいという。

［サイズ］ 40mm×30mm×3～5mm　［素　材］ K18、メノウ

山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1－6－1　山梨県防災新館1階
https://www.pref.yamanashi.jp/yjm/
開館時間：10:00～17:30（最終入館17:00）
休　館　日：火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始、その他、臨時に開館・休館することがあります。
入　館　料：無　料
駐　車　場：92台　山梨県防災新館地下有料駐車場
（来館者は1時間無料）



一級宝石研磨士

井口泰宏

（2代目井口美一）

craftsman jewelry file.26
yasuhiro iguchi
2022 March

craftsman jewelry

Vol.26

2022年3月発行

山梨ジュエリーミュージアム発行

全てが唯一無二の作品

育った環境と手の器用さで研磨の世界に

自宅の庭には大きな原石がいくつも転がっていた。幼少時代の井口はそこを遊び場として走り回ったり、母が原石を漬物石の代わりにしていたりするなど、石は身近にあるものだった。高校卒業後、貴金属会社に就職すると同時に宝石美術専門学校の一般課程（当時）に入学した。もともと手先が器用だったこともありこの世界に足を踏み入れた。午前中に学校で知識と技術の知識向上に励み、午後は会社で実務をこなすといった生活を2年間続けた。当時から井口の技術には定評があり、技能五輪全国大会にも出場した。その技術を磨き続け、現在では山梨県知事が認定するジュエリーマスター認定制度で唯一、宝石加工と宝飾加工（貴金属加工）2部門のジュエリーマスターに認定されている。

会社で8年程勤務した頃、先代の父の引退話が出てきた。一人でやっていても仕方がないからやめようと思うと言われた時、それなら自分が継ごうと決めた。先代の父は戦後、メノウをむらなく赤く染める技術を世界で初めて成功させた人物である。従来、あらゆる職人が試行錯誤しながら試みたが、どの手法も色むらがありきれいに染まることはなかった。現在では、先代の編み出した手法は世界中で用いられている。

そして3代目となった井口の会社は2021年に創業100年を迎えた。

メノウを染めるのではなく再現させている

井口は「メノウを染める」と表現するのは正確には正しくないという。安価な手法としてインクで染めて発色させているものもあるが、単にインクが染み込んでいるだけなので、時間がたてば退色してしまう。井口が用いている手法は、自然に発色する鉱物と同じ状況を作りだして発色させているものであるため、色を再現しているというのが正しい。

鉱物は通常自然界にある成分や不純物などが原石に入り込むことによって赤や青、緑などの色に変化する。例えば、メノウの隙間に赤い酸化鉄の微粒子が入っていれば赤く発色する。井口は、その隙間に鉄分を含む成分を染み込ませ、その鉄分を酸化させて赤くしている。井口は1色染めるのに1カ月程かけ、その過程を再現している。

井口は、メノウを赤く染めるだけでなく他の色の染め分けにも成功した。原石によって色の付きやすさが異なることが分かり試行錯誤しながら自身の感覚を磨いていったのだ。その甲斐もあり、現在は5色の色を染め分けることができる。

その染め分けを活用し、風景画に見えるピクチャーメノウという井口オリジナルの作品を制作するようになった。染めていない生メノウの模様から風景の一部を連想し、それに合った色を付けて風景画のような石に仕上げていく。例えば、三角の模様があればそれをピラミッドに見立てて周りを砂漠の黄土色と空の青色に染めていく。

メノウの模様は原石のどこを切り取っても同じものはない。厚さ5ミリに切った原石の表と裏では全く違う模様になっていることもよくある。そのため、0.1ミリでも削りすぎてしまうとその模様が変わってしまい思い描いたものを制作することができなくなってしまう。一つの石からどの模様をどのように切り取るかによって全く別の作品に仕上がり、かつ同じ作品は二度とできないのである。

コロナ禍での方向転換

コロナ禍以前の井口は、海外まで原石を買い付けに行くこともしばしばあった。他人に依頼した場合では、使えない原石も多くなってしまうが、自分の目で見て購入すれば、それが全て使えるものになる。

また、井口は国内で開催されるジュエリーショーはもちろん、香港ジュエリーショーにも積極的に出展していた。このジュエリーショーを足掛かりにアメリカにピクチャーメノウを継続的に輸出していたこともある。

しかし、コロナ禍により、ジュエリーショーがことごとく中止になったため、販売体系も変化させた。インスタグラムなどのSNSを活用し情報を発信するとともにルースを販売するようにした。SNSにカボションカットのつや消しのルースを掲載した際、「グミみたいな宝石」と紹介することで、ジュエリーに興味が薄い層にもかわいいと目に留まり、結果客層の広がりにつながった。

これからの展望

現在確保しているメノウの原石は10年程前にブラジルで買い付けたものだが、ブラジルではメノウの原石が激減している。今後新しい産出先が見つかるかもしれないが、今ある原石を大事に使って丁寧に作品を制作していきたいと語る。後進となる若者に対しても、作品から技術を感じ取ってもらい、その若者の技術向上の一助になればと思っている。また、SNSをより広く活用したり、ホームページを立ち上げたりして多くの人に存在を知ってもらいたいという。

そして、最もチャレンジしたいことは、新しい色を開発したり、現在使い分けている5色の色を進化させたりすることだ。現在再現させている赤の色は茶色がかっているため、ルビーのような明るい赤を再現させたいという。また、理屈上出来ない色を再現させ、世界中で誰も出来ないオリジナルの色を作っていきたいと、井口の思い描く未来にはやりたいことが尽きない。

craftsman jewelry

Vol.26

井口 泰宏（いぐち やすひろ）
（2代目井口美一）

一級宝石研磨士

美馬貴石株式会社
甲府市青沼 1-13-13
Tel:055-233-3513

インスタグラム・ツイッター
@miuma_jewelry